授業科目	ハングル発展					単位	1
履　　修	選択	関連資格				ナンバリング	WE10507J
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP5-1		
担当教員	韓　京我						
授業概要	韓国語入門で学習したことをベースに、韓国語の単語や身近な事柄について会話表現を中心に学び、自己表現とともに他者理解ができるようになることを目指す。なお、授業は指定の教科書を中心に進めるが、受講生の理解を助けるため、補充資料や練習用プリントを用いることがある。						
学生が達成すべき行動目標	1. 学習した決まり文句や返事・あいづちを適切に使えるようになる。 2. 自分や相手に関する事柄について、簡単な会話ができる。 3. 授業で学習した単語や文法を使って書かれた文章を理解し、正しく読んだり、書いたりすることができる。						

達成度評価

評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	20		10	10	10	100	その他は、授業への参加度
知識・理解（DP1-1）	30	10		5	5	5	55	試験・テスト・課題
知識・理解（DP1-2）								
知識・理解（DP1-3）								
知識・理解（DP1-4）								
思考・判断（DP2-1）								
思考・判断（DP2-2）								
関心・意欲（DP3-1）								
関心・意欲（DP3-2）								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度（DP4-3）								
技能・表現（DP5-1）	20	10		5	5	5	45	試験・テスト・課題
技能・表現（DP5-2）								
技能・表現（DP5-3）								

具体的な達成の目安

理想的レベル	標準的なレベル
1. 簡単な韓国語にに受け答えすることができる。 2. テーマについて簡単な作文ができる。 3. 日常生活における基本的なコミュニケーションの方法を身につけること。	1. 韓国語で質問し、その答えを聞き取ることができる。 2. 簡単な文章を書くことができる。 3. 自分の一日の行動が話せる。

授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 韓国語入門での主要学習事項について復習 第 12 課　所属と学年	※授業展開によっては授業計画に若干の変更があり得ます。　授業ガイダンス 講義	復習:該当部分の復習	60
2	第 12 課　何の～、学年の言い方、～も 第 13 課　サークル	講義	復習:該当部分の復習	60
3	第 13 課　하다用言、～を、好みの表現	講義	復習:該当部分の復習	60
4	第 14 課　持ち主、指し示す言葉、所有・所属表現	講義	復習:該当部分の復習	60
5	第 14 課　名詞文の否定 第 15 課　存在、ある・いる/ない・いない	講義	復習:該当部分の復習	60
6	第 15 課　二重パッチムの発音、해요体(-ます/です)、～に	講義	復習:該当部分の復習	60
7	第 16 課　年齢、年齢の言い方、～ですね、～で	講義	復習:該当部分の復習	60
8	第 12～16 課の主要学習内容について復習 中間テスト(会話テスト・筆記テスト)	第 12～16 課の内容について中間テストを行う	復習:該当部分の復習	60
9	第 17 課　関心と好きなもの、琉音化、～が、～と	講義	復習:該当部分の復習	60
10	第 17 課　丁寧化の語尾 -요/이요、～(し)て 第 18 課　日常のおこない	講義	復習:該当部分の復習	60
11	第 18 課　否定表現、해요体の縮約形、～けれども、～で	講義	復習:該当部分の復習	60
12	第 18 課 「나의 하루 私の1日」を作文 第 19 課　過去のできごと	講義	復習:該当部分の復習	60
13	「나의 하루 私の1日」を発表	口頭での発表をもって評価する	復習:該当部分の復習	60
14	第 19 課　過去の해요体、해요体の縮約形、～(し)に	講義	復習:該当部分の復習	60
15	第 17～19 課の主要学習内容について復習 全体的なまとめ	講義	定期試験に備えて復習	
16				
17				
18				

19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	予習・復習はもちろんのこと、「声を出す」ことを惜しまないように。外国語のマスターには積極的な発音練習が大きな鍵となる為、毎時聴く・話すことの喜びを積み重ねていくこと。習い覚えた韓国語を日常生活の中でどんどん使う習慣をつける。
テキスト	長谷川由紀子　著 『コミュニケーション韓国語　聞いて話そうⅠ』 白帝社
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	随時紹介します。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	教科書添付の音声ファイルを活用して対話になじむように取り組むこと。
達成度評価に関するコメント	出席と復習は基本です。定期試験、中間（会話・筆記）テスト、「私の１日」作文・発表、課題、授業への参加度（出席・受講態度）で総合的に評価します。熱意とやる気を持って積極的に取り組みましょう。